

メンター通信 (VOL. 15)

平成 25 年 1 月 12 日

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。
年始明けの通信 15 号は一部内容を変更してお届けいたします



① メンター活動報告(10~12月)

	活動内容	延べメンター数	対象者数
10月11日	りんくすグループ相談会③(派遣)	2名	6名
10月22日	サポートブック研修(支援者向け:くるみ会)派遣	1名	19名
11月8日	りんくすグループ相談会④(派遣)	2名	10名
11月8日、9日	家族支援プログラムサテライト③(海部) 障害特性講義・擬似体験 ピアカウンセリング	1名 16名	10名
11月12日	事例検討会③	12名	
11月22日	サポートブック研修(基礎:西部地域療育センター)派遣	1名	11名
11月26日	サポートブック研修(基礎:県センター主催)派遣	1名	28名
11月27日	サポートブック研修(基礎:西部地域療育センター)派遣	1名	12名
12月4日	サポートブック研修(基礎:県センター主催)派遣	1名	33名
12月13日	りんくすグループ相談会④(派遣)	2名	8名
12月14日	相談従事者研修模擬相談者ロールプレイ派遣	10名	35名

② 名古屋市主催【障害者相談支援従事者研修会】報告

名古屋市では市内の相談支援事業所の職員を対象に「障害者相談支援従事者研修会」を行っております。この研修にペアレント・メンターも模擬相談者として参加させていただき、メンターの参加は今年で3回目の参加になります。今回はこの相談支援従事者研修会についてお知らせします。

(1) 研修スケジュール

研修は2回のプログラムになっています。

11月30日	「発達障害について」講義
12月14日	ロールプレイ

(2) 対象者

名古屋市
各障害者地域生活支援センター相談員
指定特定相談支援事業所相談員

(3) 担当より

相談支援を行っている方から助言を求められたり、当事者の方からスムーズに相談が進まないなどの話を聞いていたことから、発達障害の特性を理解した相談ができる人を増やしたいと、この研修は始まりました。しかし実を言うと最初はどんな研修にするか充分考えていたわけではありませんでした。グループワークにはしたいけれどファシリテーターの数が足りないしどうしたものか、と思案していた時にふっと浮かんだのがメンター養成研修のロールプレイだったというわけです。研修後のアンケートを見ると、主催者側が狙ったことを感想として書いてくださっている方が多く見られ、とても有意義で評判の良い研修になっていると自画自賛しています。そんなわけで、吉川先生やメンターさんの協力なしには成立しない研修です。今後ご協力、よろしくお願いいたします。

名古屋市発達障害者支援センター りんくす名古屋
榎並 恭子

(4)ペアレント・メンターが模擬相談者で参加するねらい

最近の専門家の養成、研修は旧来の講義中心のものから、少しずつ実習を中心としたものになってきています。皆さんのメンターの研修を思い出していただけるとわかつてと思いますが、講義を受けるだけで身につけられることには限界があり、ワークショップなどの形で、実際に頭や身体を使う方法が取り入れられています。

それと同時に、専門家の研修にユーザーとなる側が協力するという試みも進んでいます。医学教育の世界では、診察の実習や試験の際に患者役を演じる「模擬患者」ボランティアの方がすでに長く活動されています。医学部の学生は模擬患者さんを相手にテストを受け、それを通過しないと実際の病院などでの実習に進めないという仕組みが導入されています。将来自分たちや後輩たちを支援してくれるかもしれない専門家に、まだトレーニングをはじめた頃もない頃から、ユーザー側の感じることやその思いをフィードバックできる機会を持つことは、有能な専門家を育てる上でとても有用です。

この二つの意味で、専門家の研修にロールプレイの相手役などとして、メンターが参加することには大きな意味があります。メンターは自分もロールプレイによる研修を受けているので研修そのものの進行に慣れていて、また普段からサービスを利用するだけでなく自らがメンターのサービスを提供する側にも立っていて、相談の流れや限界を知っていることから、模擬相談者役としてはとても適任です。今後ぜひこのような機会を見つけていただいて、専門家の育成に積極的にご協力をいただけるとよいと思っています。

愛知県心身障害者コロニー中央病院 吉川徹

(5)参加者の感想(抜粋)

- ・話のきき方を客観的に見ることができました。ペースを合わせる。間の取り方、話しやすさ等が大切であることが分かりました。気持ちよく話せるように、かかわっていきたくて思いました。
- ・以前もメンターの方とのロールプレイをしました。年に1度は今日のような場で自身の仕事をふりかえることは大事だし新鮮でした。
- ・自分がどんな様子で相談にのっているか、普段一人なので分からない。客観的に見てもらって、アドバイスがもらえるのがよかった。
- ・いろいろな事例を、自分が体験する前に経験しておきたい。
- ・普段の質問のしかたなど、他の人に見てもらえる事がないので、見てもらい意見を頂けた事。

=====★=====★=====★=====★=====

③ペアレントメンター報告

ペアレントメンター講習を初めて受けさせていただいた時、35年ほど前の自分を思い出しました。身体の遅れは無いが行動面で問題があり町の保健師、保健所の保健師が立ち代り子どもの様子を見に来ますが「元気ですね」「遊びに工夫がありますね」などと言って一人遊びの様子を見て何も言わないで帰りました。地域の障害者の親さんとは話が合いません、私の不安が増し手当たりしだい育児相談、医師の診察に回っているとき児童相談所でいろんなパンフレットの中につぼみの会の案内がありその地域の役員の方のお名前と電話番号を見つけました。児童相談所の担当者に相談して電話しました。今まで子どもの様子を話しても理解されなかったことが、当たり前のように受け止めていただいた時のホットした気持ちおすれません。兄弟の育児に悩んでいた時、同じような経験した親さんにお話を聞くことができました。毎日の生活の中のアドバイスは言葉では言い表せない気持ちの落ち着きをいただきました(実際にはその後の育児はとても大変でした)。つぼみの会の先輩に助けられたように、若い親御さんの力になれるといいのです。

御参加の方、母親が多いのですが父親、祖母ですと少しお知りになりたいことに違いがあります、気づくのにかかって申し訳ないことがありました。聞き役になりきれるよう、正しく聞き取れるよう、共感できる心を持てるようになりたいです。

特非) 愛知県自閉症協会・つぼみの会 緒方 友子

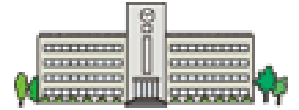
④ 事例検討会報告



今年度の事例検討会は4回を予定しております。第2回、第3回には「名古屋の【教育】【就労】と言ったらこの先生!!!」ということで、今回ご無理をお願いし、ご指導いただきました。名古屋ではおなじみのお二人の先生方に、事例検討会を終えてのご意見をお伺いしました。

○9月8日開催:テーマ【学校について】

名古屋市立西養護学校 校長 矢野博明先生



メンターの事例検討会の形態について、お感じになられたことをお聞かせください

- ・先輩のメンターの方々が活発に発言をされ、後輩を育てる雰囲気が強くと感じられる会になっていると思います。
- ・報告者の方はもう少し情報収集の工夫ができないかな、と思います。なかなか難しいとは思いますが・・・

今回、ご指導いただいた「学校関係」の中で、特に重要と思われる点はどのあたりになりますでしょうか

- ・家庭内暴力への対応がキーワードだったと思います。家庭内暴力の背景、基本方針、避難のポイントなど、私個人の考えはお伝えしましたが、もう少し議論を深めたかったかなあと思っています。

メンターとして「学校関係」の相談を受ける際の留意点などありましたらお教えてください

- ・相談者の話に傾聴することを基本に、子どもの行動の背景についての理解、学校とのかかわりや学校に望んでいること(相談者・子ども共に)をキーワードに聴いていくことが大切であると思っています。

メンターへのメッセージがありましたら、ぜひお願いいたします

- ・機会がありましたら、是非お声かけていただきたいと思っています。
- ・現状の事例検討会を継続していけば、素晴らしいメンターが続々と育っていくと思います。大いに期待しています。

○11月11日開催:テーマ【就労について】

就業移行支援事業所マーム 事業本部長 宮崎潔先生



メンターの事例検討会の形態について、お感じになられたことをお聞かせください

- ・たくさんのメンターの方が関わってみえて、心強く思いました。

今回、ご指導いただいた「就労関係」の中で、特に重要と思われる点はどのあたりになりますでしょうか

- ・地域の支援機関の有効活用について

メンターとして「就労関係」の相談を受ける際の留意点などありましたらお教えてください

- ・就労する上での重要項目(働く力と支える力)の確認を!

メンターへのメッセージがありましたら、ぜひお願いいたします

- ・焦らず、あとずさりせず、しっかりしたスタンスで、今日までのご経験をフルに活かして喜んでいただけるメンターになってください。

【先生方、ご指導いただきありがとうございました】

*今年度4回目の事例検討会は平成25年2月20日に開催されます。参加希望される方でお申し込みをお済でない方は加藤までご連絡ください。

【各地の研修風景から 第5回】 兵庫県



今回は愛知県自閉症協会でサポートブック研修を行うきっかけをいただいた式部先生のいらっしゃる兵庫県です。井上先生は鳥取大学の前は兵庫教育大学にいらっしゃり、応用研修でおなじみの原口先生、加藤先生はその井上ゼミのご出身。兵庫はゆかりのある土地でもあります。

ひょうご発達障害者支援センター クローバーの式部です。兵庫県では、平成 21 年度に初めて、井上雅彦先生のお力添えのもと、ペアレントメンター養成講座を開催しました。その後、平成 22 年度、23 年度は県から単年の予算をいただき、クローバーのスタッフが中心となって、養成講座を開催しました。開催にあたっては、市町行政職員向けの研修会と同日開催にするなど、関係機関とペアレントメンターの皆さんが顔を合わせる機会を持てるよう、企画を行ってきました。3 年間で 57 名のメンターさんが誕生しています。

残念ながら、平成 24 年度は予算が見込めず、今年度は、これから発達障害者支援センターとしてペアレントメンターに関する業務をどのように行っていくかという方向性について、センターと 5 か所のランチで検討する 1 年となっています。

センターと 5 か所のランチには、担当地域があり、それぞれが各地域のメンターさんたちと情報交換や連携を模索しています。地域の実情もさまざまで、特に県北は親の会も少なく、メンターさんたちの情報交換会が唯一の親同士の交流の場になっているようです。また、兵庫県では平成 18 年度から保健師を中心とした家庭療育支援講座(ペアレントトレーニング)を展開しており、それぞれの地域で、メンターさんにサポートブック作成のお手伝いをしていたり、勉強会で先輩ママとして体験談を語っていただいたり、少しずつできることを行っています。

事業化や組織化、予算化といった面ではまだまだ課題がありますが、既存の取り組みやつながりを活かして、メンターさんたちの活躍の場を作っていけたらと思っています。来年度は、クローバーのホームページの親の会ブログを活用して、各地の取り組みを発信していけたらと思っています。 【式部陽子】

兵庫県は井上先生のお力添えを頂き、早い段階でペアレントメンター養成に取り組んでまいりました。養成研修を行った時には、兵庫県内に多くある親の会で、相談活動が出来る方を養成する形で開始しました。研修を受けられたメンターさんからは、「面談の仕方がよくわかった」など、日ごろの親の会活動で生かせるとの声を多く頂きました。

しかし、親の会の中で活動が継続できなくなる所が出てくるなど、養成開始時と状況も変わってきており、改めて、ペアレントメンターさんのお力が発揮できる環境づくりが必要になってきました。

相談の中でも「子育てをされた親御さんのお話が聞きたい」という声がよく聞かれます。そうした声に沿えるよう、養成したメンターさんが活躍いただけるような体制作りを目指していきたいと考えております。 【和田康宏】

兵庫県は自閉症協会の他にも、高機能自閉症やアスペルガー症候群の会である NPO 法人ピュアコスモや LD 親の会 たつの子をはじめとした多くの親の会や NPO 法人があります。メンター養成後の組織化や運営についての課題がありますが、兵庫県の親御さん方のパワーとレベルは非常に高いものがあります。

兵庫県は日本海側から阪神地域、淡路島まで地域が広く、医療機関や支援機関については地域差も大きいという特徴があります。県として一律なメンターのシステムを考えるのではなく、地域特性を生かしたシステムを作り上げて頂ければと思います。 【井上雅彦】

兵庫の印象は「就労支援がすごい！」。公開講座での労働局(記憶違いならごめんなさい)の取り組みを聞き、ジョブコーチ、トライアル雇用は進んでいるし、インターンシップ事業も！！と、かなりの衝撃を受け、【愛知のみんなに報告しよう！】と思った記憶があります。センター長さんも就労についてさまざまなサポートをされていて、「すごい！すごい！」を連発していたような気がします。サポートブック研修といい、私にとっては教えていただくことだらけだった記憶があります。研修の方は、さまざまな親の団体があり、それぞれ特徴のある活動をされている、とてもアクティブで熱心な方々でした。関係ないことではありますが、加藤個人のお楽しみ「県外でのスーパーめぐり」はこの頃から始まったのでした。 【加藤 香】

「今回のゲストコメンテーター」

ペアレントメンターのみなさま

アスペ・エルデの会の田中尚樹です。ペアレントメンター養成講座については、当会の会員も参加させていただいております。私たちも先輩であるお母さんがメンターとして若いお母さんたちに果たす役割の大きさを感じて、法人内で取り組んできました。今はペアレントメンター養成のプログラムを学ばせていただくことで、メンターとしての役割やその重要性を実感している親が増えています。

親という立場での支援は、「できないことをできるようにする」ということだけではなく「今取り組んでいる課題は後にして、他の課題から取り組もう」「今はまだできていなくても大丈夫」と思えることで、子育ての焦りや負担が軽くなることや、子どもが成長していくなかで、学校の先生や支援機関へのつながり方や子どもがそれぞれの段階でどんな準備をしたらよいのか教えてもらったりすることなど、親どうしということだから教えてもらえることもあります。

会でも子育てサロンや子育てトークという活動をしています。そのなかにメンターの人たちが自信を持って話をしている姿があります。子育ての大変さと支援を活用することの大切さ、そのなかで子どもの成長をできる楽しさなど伝えることで、そこに参加しているお母さんたちも安心できたり、前向きな気持ちになれたりするようです。

ここ数年メンターを要請してきています。これからも新しいメンターを養成しながら、フォローアップを行い、質の維持、向上が大事になってきます。それと同時に、支援機関がメンター事業と連携を取りながら、どの時期に、どの機関で、どのような支援を提供できるのかということも必要になります。支援機関の役割とメンターの役割を整理していくこともより重要なものになってくると思います。

専門家としての支援と親としての支援の両輪のバランスが整うことで、発達障害児者やその家族がポジティブに生活を送ることができるようになります。

アスペ・エルデの会としてもペアレントメンターやペアレントトレーニングはこれからとても重要な支援の一つだと考えています。ぜひ皆さんと一緒に積極的にこれらの事業の普及に努めていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

特定非営利活動法人 アスペエルデの会 事務局長
田中 尚樹

⑥今後のお知らせ

1. 今年度4回目の事例検討会は平成25年2月20日に決まりました。通信と共にご案内をお送りします。
2. 1～3月の活動報告書提出の締め切りについては、年度末につき、4月5日にさせていただきます。期日までに(ない場合もご連絡を御願致します。
3. 25年度になりましたら、4月末には年間派遣計画書をお送りします。ご希望の活動などをご連絡いただくこととなりますので、よろしくお願い致します。

その他、ご不明な点、ご質問などは事務局加藤まで何なりとご連絡ください。

*メンターコメント「北から南から」は紙面の都合上、今回はお休みさせていただきました。

第 15 回集計をふまえて(吉川 徹先生より)

メンターの皆様、日々の活動お疲れ様です。寒い日が続きますが、風邪などひかれていないでしょうか。今年度はまだ本格的なインフルエンザの流行は始まっていないようですが、くれぐれも気を付けてお過ごしください。

さて今号では名古屋市の障害者相談支援従事者研修会について取り上げていただきました。障害者自立支援法の改定の中で、相談支援の重要性が言われており、仕組みも大きく変わってきています。それを受けての研修なのですが、ここにメンターが関わることは、専門家のスキルの向上のみならず、メンターの皆様にとっても、ベテランの支援者の相談技術を見聞きしたり、若い支援者の熱意に触れたりする良い機会になるのではないかと思います。専門家の相談とメンターの相談では、その目的や方向は違いますが、技術や姿勢の点で重なるところは少なくないと思います。今後、できれば医師や看護師の養成にあたっては、メンターの方にご協力をいただく機会が作れないかと考えております。その際には、ぜひご協力をいただきますようお願いいたします。

また愛知県での応用研修も今度で 4 回目の開催となりました。毎年新しいテーマに取り組みながら来ていますが、今年はきょうだい、祖父母に関する相談について、取り上げることになりました。家族の中の問題は、専門家との関わりの中では、ちょっと話題になりにくく、しかも重要な問題です。メンターへの相談の中では特にきょうだいについて話題になることは多く、特に経験の共有が求められている相談の領域かと思えます。それぞれの家庭のなかでのきょうだいの姿や祖父母世代との関わりには、本当に様々な形があります。これを機会に、当事者と両親から少し視野を広げて、家族全体の様子に気を配りながら相談を進めていただけると、更に利用者の方の気持ちに添った援助ができるのではないかと思います。

今後もぜひ継続した研修の機会の準備をお手伝いさせていただきたいと思っております。今年もどうぞよろしく願い申し上げます。

愛知県心身障害者コロニー中央病院 児童精神科 吉川 徹

<編集後記>

あっという間に冬休み、お正月、応用研修と時が流れていきました。そのうち「あ！もう新学期！」となるかと思えます。今年度の流れを振り返り、来年度に向けての計画を立てていく時期にもなっています。その前に、少しの間「受験生の母」のモードで過し、みなさまに高校受験の新しいリソースをまとめてご報告したいと思います。みなさまの周りでも新しい「ネタ」がありましたら、是非お教え下さい。

先日のクリスマス。我が家の近くにはちまたで有名なケーキ屋さんがあります。「なんだこの渋滞は？」と思ったら、ケーキを買い求めるクリスマス渋滞でした。という我が家は、過去に娘の「クリスマスケーキ一個食い」という子どもが夢に見る風景がありましたが、さすがに中3になると胸焼けがする（それと太る、、、）という理由でなくなりました。今回はクリスマス商戦にはまらない、ごくごく普段どおりの一日をすごしました。みなさまのクリスマス、サンタさんはきましたか？

発行：愛知県ペアレント・メンター等活動推進連絡会

編集：特定非営利活動法人 愛知県自閉症協会・つぼみの会

〒460-0013 名古屋市中区上前津 2-14-25 上前津中央マンション 202号

TEL/FAX 052-323-0298 E-Mail: tubomi-aa@nifty.com

編集担当者：支援部 加藤 香